

<学習成果と課題>

国語 ○成果があった点 ●課題がある点

1 各領域における成果と課題について

言葉の特徴や使い方に関する事項

事象や行為を表す語句（例えば「しきりと」）の意味については理解しているが、文脈に即して漢字を正しく使うことに課題がある。今後は、漢字の読み書き練習だけではなく、日ごろの日記指導やレポートなど様々な書く場面において、文脈に即して正しい漢字を使うことができるよう指導していく。

○事象や行為を表す言葉について理解している。

●文脈に即して漢字を正しく使うことができる。

話すこと・聞くこと

本校では、下級生に向けてのトライやる・ウィーク報告会や修学旅行報告会など、自分の学びを他者にスライド等を使って報告するなどの取り組みを行った。それらのことから、相手の反応を踏まえ、自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫することはできている。今後は、発表する際の機器や資料の効果も考えさせるように指導する。

○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫することができる。

●資料や機器を用いて、自分の考えがわかりやすく伝えるように表現を工夫することができる。

書くこと

校外学習、修学旅行など、行事ごとに体験や学びを文章に書いてきた成果として、書く内容のまとまりや構成を考えることが身につけてきている。しかし、目的や意図（例えば「職場体験でお世話になった方へのお礼の手紙」）に応じた文章の叙述の仕方や文章を読み返し整えることには課題がある。

○書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができる。

●読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができる。

●自分考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして明確にして書くことができる。

読むこと

文学的な文章の読みは、継続して取り組んでいる朝読書の活動によって、登場人物の設定の仕方等を捉えることができている。しかし、文章の構成や展開を把握した上で、なぜそのような構成や展開になっているのか、その効果について根拠を明確にして考えることに大きな課題がある。今後は、文学的な文章を読む際、内容の把握にとどまらず、文章構成についても意識し、自分なりの意味付けができるように習慣化させたい。

○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる。

●文章の構成や展開について根拠を明確にして考えることができる。

2 今後に向けて

話すこと・聞くことの指導においては、さまざまな発表等を実施する際、相手によりよく伝えることができるように、それぞれが行った発表に関して、発表の仕方を工夫するとともに、互いの良さ、課題などを指摘する活動をこれまで以上に取り入れたい。

書くことの指導においては、文章を読み返す視点を明確に提示し、すでに身に付けている知識や技能を生かしながらより相手に明確に伝わる文章に整えることができるよう指導していく。

読むことの指導において、文学的な文章を読む際、内容の把握にとどまらず、文章構成についても意識し、表現の効果について根拠を明らかにして考えることができるように習慣化させたい。

数 学

○成果があった点 ●課題がある点

1 各領域における成果と課題について

数と式

数の性質、式の意味の理解がやや劣っている。素数の意味の理解、式の意味を読み取り成り立つ事柄を見だし数学的な表現を用いて説明する、目的に応じて式を変形したりその意味を読み取り事柄が成り立つ理由を説明する問題などにおいては、授業での演習を取り組み、さらに自主学習等で意味、理解の定着を図る必要がある。

- 素数の意味を理解している。
- 文字を使って式を作ることができる。
- 数に関する証明において、論理的に考えることができる。

図形

図形の性質はおおむね理解できている。しかし、図形の証明に関しては、等しい関係や論理的な順序、理由の答え方などは苦手である。論理的に考えることができる演習を取り組む必要がある。

○基本的な図形の性質を、理解することができる。

- 与えられた条件から等しい関係を見つけ、順序立てて平行四辺形であることを証明することができる。

関数

関数の基本は理解できている。グラフから情報を読み取ることはおおむね理解できている。しかし、一次関数の式の意味や事象を数学的に解釈して、問題解決の方法を数学的に説明することは課題である。規則性、法則性に気づき、数学的に説明できる演習を取り組む必要がある。

○事象に即してグラフから情報を読み取ることができる。

- 事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明ができる。

データの活用

示されたデータから、どのような特徴があるかなどは、おおむね読み取ることができている。データを活用し、自分が欲しい情報を読み取ることがおおむねできている。確率に関しても、意味を理解して取り組んでいる。

- データを読み取り、正しく理解できる。
- 確率を求めることができる。

2 今後に向けて

どの問題も未回答で答えることがほとんどなく、また記述式の問題に対しても自分の考えを記述するなど、最後まで粘り強く取り組もうとする積極的な姿勢がうかがえる。基本的なことは理解できている。課題として、数学的な論理思考力や説明力、特に証明や説明を求められる問題においては、「何をどのように説明すれば証明ができる」かを理解する必要がある。

現在本校では、兵庫型学習システムによって3年生では少人数制での授業を行っている。また放課後の学習会や長期休業中に講座等を実施し、基礎基本の定着や課題克服に向けた指導を行うことで、今後も、各生徒の課題に応じた基本的能力の向上を目指すとともに、発展問題や応用問題等に授業以外で取り組み、学力の向上に努めていく。

理 科 ○成果があった点 ●課題がある点

1 IRT スコアについて

○IRT スコアについては、全国値とほぼ同程度であったが、バンド2～3に位置する生徒が一定数おり、学習の定着度に差があることが確認された。

2 各領域における成果と課題について

エネルギー

電流による発熱に関する問いについて、電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身につけているかどうかを見る趣旨は、全国の正答率とほぼ同程度であった。

誤答からは、回路全体の抵抗が大きいのは、抵抗を並列につないでいる装置2であると指摘していることから、合成抵抗に関する知識は身につけていないと考えられる。また、装置2の抵抗値が大きいと捉えているため、それよりも抵抗値が小さいとする装置1の方が、発生する熱量が大きいと捉えている。このため、電圧を加えたときに発生する熱量は、抵抗の小さい方が発生する熱量が大きいという知識は身につけていると考えられるが、抵抗の大きさを誤って捉えているため、発生する熱量が大きい装置を誤って指摘していると考えられる。

粒子

粒子に関する知識・技能はおおむね理解できているが、問題解決のための課題設定等の思考力に関する問いが苦手である。実験や実習において、仮説や実験方法を考えることに取り組む必要がある。

○元素を記号であらわすことが出来る。

○実験操作の技能が身につけている。

●科学的な探求を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した課題設定ができる。

●実験結果を分析して解釈し、化学変化を原子・分子としてモデル化して考えることができる。

生 命

生命に関する出題について、水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いておらず、誤答からは、動いている生物の呼吸を行うと考えていることがうかがえる。

地 球

大地の変化に関する知識や技能を活用することが苦手である。

○地層の厚さについて、ルート柱状図をもとに考えることが出来る。

●時間的・空間的の見方を働かせ、地層の傾きに着目出来る。

●地層の粒度について、分析解釈することが出来る。

3 今後に向けて

選択問題や短答問題では未回答で答えることが少なく、記述問題においても最後まで取り組もうとする積極的な姿勢がうかがえる。しかし、観察や実験の結果をもとに自分の言葉で説明する力が十分についていない。学力のばらつきへの対応を必要である。特に、1年生での既習事項の定着度が低い。

また、生徒質問の結果において、理科の授業がわかる・得意である・好きであることが全国平均より低いものの、将来役に立つ教科である認識は高い。

これらの観点より次の4点について今後取り組むことを考えている。

・4名程度による班別の学習により、主に考えを発表する1人の意見が班の意見となっていることから、ICT機器等（スカイメニューの発表ノート）の利用により、全員に考える時間をあたえる。

・これまで以上に仮説や考察などに時間を費やす。

・これまでどおり理科の内容を他教科や日常生活につなげる場面を設ける。また、全員に日常生活に関連することをICT機器等（グーグルフォーム）の利用させる。

・2学期以降はエネルギー領域及び地球領域を学習するが、これまでの既習内容と関連付けて取り組んでいく。

稲美中学校 3 年生の学力調査結果

＜生徒質問用紙＞ 生徒質問紙の回答から本校 3 年生の生徒の傾向を分析しています。

高い項目

多くの生徒が、毎日、同じくらいの時刻に寝起きし、朝食を毎朝食べるなど、基本的生活習慣が身についている。また、「学校に行くのが楽しい」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」と多くの生徒が答えており、「自分には良いところがある」「先生は、自分のよいところを認めてくれている」と感じている生徒や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」と答えた生徒の割合も高い。以上のことから、多くの生徒が、安定した家庭生活、学校生活を送っていることがわかる。

「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「友達関係に満足している」「あなたの学級では、学究生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を決めていますか」と答えた生徒の割合が高く、学校がよいふれあいの場、学びの場となっていると考えられる。

人権に関する回答では、たいへん多くの生徒が「いじめはどんなことがあってもいけない」「人が困っているときは進んで助けている」と答えており、人権意識がとても高いことがうかがえる。また、生徒たちの多くは、それぞれ将来の夢や目標をもっており、地域の方々や授業や行事などを通じて子どもたちの育ちを支えてくださっていることが、社会性や自己有用感の向上につながり

「人の役に立つ人間になりたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と考えている。

また、「自然の中で遊ぶことや自然観察する」経験や「地域の大人とさまざまな体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んだりすること」の経験が多いこともその要因として考えられる。このような生徒の様々な良い面をさらに伸ばしていきたい。

学習面では、タブレットの使用について、個別に学習でき、わからないところを調べたり、音声や画像・動画を活用したりできるなど、有効な手段であると考えている。そしてこれまで「積極的に自分から取り組んだ」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と比較的多くの生徒が答えている。

やや低い項目

普段、学校以外で勉強の時間をとる生徒が 1 日 2 時間以上取り組む生徒は、本校は国や県に比べて高い割合を占めてはいるが、週末に学校以外で勉強の時間を 1 日 2 時間以上程度取り組む生徒の割合は高くない。また、パソコンやタブレットを活用した学習に取り組むことが少ない。パソコンやタブレットを活用し、文章を作成することには慣れてはいるが、ICT 機器等の活用をし、情報をまとめたり、自分の考え等を表現したりすることには課題がある。そのため、ICT 機器等を各教科で有効に使っていきたい。

新聞を読んでいない生徒の割合は約 7 割を占めている。また、読書の時間（1 日 10 分～30 分程度）も少ない。しかし、読書が好きと答える生徒は 6 割を超え、家庭におかれている図書の数も多い状況である。今後、平日の朝の読書を継続するとともに、個々で電子図書館を利用したり、学校に提供される新聞を活用し、活字に親しませる工夫をさらに行っていく。

全 体

教科の授業（国語、数学、理科）好きと答えた生徒が多いとはいえないが、その教科を学ぶことが大切だ、また将来役に立つものだとの多くの生徒は考えている。教師への信頼関係が高い分、学習に関する質問をするなどの時間を増やすとともに、仲間とともに基礎の学力や思考力を高め、実生活に結び付けた思考や、実践力を身につけさせたい。

また、本校生徒は道徳や人権、ボランティア活動に関心が高いので、より身の回りにある社会的な課題を自分で見つけ、課題解決ができるよう ICT の活用や学習活動に取り組んでいきたい。